

有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土の ミニチュア土製品— 1

川 口 宏 海

要 旨

近世都市有岡城跡・伊丹郷町遺跡からは、多くのミニチュア土製品が出土する。初期には有岡城期の犬型土製品や江戸初期の瓦質ミニチュア茶釜があるが、その後は大都市とは違って江戸時代中期まで見られない。中期初頭には、仏像や西行など信仰や縁起物がみられるが、量や種類は大都市に比べて少ない。中期後半からは種類も増え、布袋・大黒などが加わる。江戸時代後期前半には、雛人形や相撲取りなどもみられ、時流を感じさせる。また土面子が増加する。後期後半にはさらに種類が増え、大都市とも大差がなくなる。箱庭道具や芥子面子が増えて玩具色が強まっていく。このように、大都市とは異なったミニチュア土製品の動向と庶民の意識がうかがえる。

キーワード：近世都市遺跡：Early Modern City Ruins, ミニチュア土製品 Miniature earthen goods, 土人形 Clay figure

はじめに

本論は近世の都市遺跡、有岡城跡・伊丹郷町遺跡から出土したミニチュア土製品についてまとめたものである。有岡城跡・伊丹郷町遺跡では、どの地点を調査しても、ミニチュア土製品が出土する。その中心を占めているのが土人形である。その種類は、さまざまなものがある。

ところで、人間をかたどった資料は、いつから現れるのであろうか。ここでは、近世のミニチュア土製品を述べる前に、人をかたどった考古資料について、触れておきたい。

歴史上最古の人形は、後期旧石器時代のものである。オーストリアのビレンドルフ遺

跡で発見された22,000年から24,000年前の女性の姿をかたどった、高さ11.1cmの石灰岩製小像、「ピレンドルフのピーナス」が有名である。これは、多産・豊穡などの象徴と考えられている。

日本でも、後期旧石器時代に線刻礫や岩偶など、人間をかたどったと考えられる遺物が認められる。線刻礫の最古のものは鹿児島県曾於郡財部町耳取遺跡から出土したもので、共伴した炭化物の放射性炭素年代は約24,000年前とされる。¹⁾

縄文時代には、焼物の人形としては日本最古の土偶が現れる。もっとも早いものは、縄文時代早期前半である。初期のものは抽象的な形であるが、中期以降ははっきりと乳房を表現しており、ほとんどが女性をかたどっていると考えられる。土偶は、東日本を中心として出土する。これらも、誕生や豊穡の祈りにかかわるものとの説が有力である。

本格的な水稲耕作が開始された弥生時代には、木偶や鳥型木製品が見られる。岡山県倉敷市榑築墳丘墓からは、弥生時代後期の「人形土製品」が出土している。²⁾ 残存高9.5cmの小さなものである。また中央にくびれのある分銅形土製品も人の顔を表現したのものが、これも岡山県を中心として西日本に分布する。これらも祭祀遺物と考えられる。

古墳時代には、埴輪が登場する。人物埴輪や家形埴輪、器材形埴輪が王墓の古墳に据えられた。このほか、全長8cm前後の人形土製品が静岡県以西の西日本で出土している。

奈良時代には、宮都の溝などから金属や木製の人形が出土する。これらは、これに触れ、これに穢れを移して流すことによって邪気を防ぐ、大祓などに用いられた「形代」^{かたしろ}と考えられている。人面墨書土器なども同様の用途が考えられる。また、井戸などからは土馬が出土する。これは水にかかわる祭祀に用いられたと考えられている。

奈良時代の土馬祭祀はその後廃れ、木製人形も平安時代に一時下火になるが、鎌倉・室町時代には再び出土量が増える。平安時代から増加する呪符木簡などとともに除災の祈りに用いられたと考えられる。

このように、各時代ごとに人や動物をかたどった遺物が見られる。しかし、それらは必ずしも系譜的につながってはいない。またその用いられ方は、時代によってさまざまであったと考えられる。あるものは多産・豊穡などを祈る道具、あるものは祭祀用具、あるいは呪具として用いられたと考えられている。

次に、近世のミニチュア土製品の研究について触れておきたい。ミニチュア土製品のうち、特に土人形については、玩具研究のなかで伝世品と文献史料を基にした研究が進められてきた。斎藤良輔氏の『日本人形玩具辞典』(1968年)³⁾はその研究の成果を示している。関西においては、土人形の生産地として有名な伏見人形の研究が早くから行われ、塩見青嵐氏の『伏見人形』(1967年)⁴⁾、奥村寛純氏の『伏見人形の原型 六代目丹嘉』(1976年)⁵⁾などの成果がある。

一方、考古学からの研究としては、1970年代以降近世遺跡の発掘の進展とともに、各地の発掘調査報告書で報告され、研究が深められてきた。まとまった研究としては、安芸穂子氏の「近世の土人形」（1989年）を始めとする一連の研究が挙げられる⁶⁾。また、関西では、嶋谷和彦氏の「人を象る遺物—考古資料に見られる“人形”—」（1988年）などの研究が知られる⁷⁾。

また、これまでに有岡城跡・伊丹郷町遺跡のミニチュア土製品をまとめたものとして、萩野典子（現小笠原典子）氏の「ミニチュア土製品」（1990年）がある⁸⁾。

ここでは、これらの研究に導かれつつ、伊丹郷町遺跡出土のミニチュア土製品について、萩野（現小笠原）氏の研究以後多くの新資料が蓄積されたことを受けて、新たに時期的な変遷と各時期の特徴を明らかにすることを主眼として論述していきたい。

1. 有岡城跡・伊丹郷町遺跡の略史と時期区分

有岡城跡・伊丹郷町遺跡は、兵庫県伊丹市に所在する。中世には、在地武士伊丹氏の本拠地として伊丹城が営まれた。この時期を伊丹城期とする。

天正2年（1574）池田氏の家臣から身を起こした戦国大名、荒木村重が伊丹氏を追放してここに入城する。このとき城郭は惣構えを持つものへ大改造されたと考えられている。また、名称を伊丹城から有岡城へと改名することとなった。天正7年（1579）、村重は主君織田信長と対立して敗れ、有岡城は落城し、あとに池田之助（元助）が入る。この時期を有岡城期とする。天正11年（1583）には、池田氏は豊臣秀吉によって転封され、城は廃城となる。残された旧城下町は豊臣政権、徳川幕府の支配の時期を経て、大半が寛文元年（1661）近衛家領となった。

江戸時代には酒造業・運送業が発達し、経済力豊かな在郷町となった。特に酒造業は伊丹郷町の基幹産業としてあり、柚木 学氏の研究によると、元禄から享保期（17世紀末～18世紀初頭）に第一の盛期を迎え、文化・文政期（19世紀初頭）に第二の盛期を迎えるという⁹⁾。町の発展はこの盛期と軌を一にしていることが、考古学的にもとらえられている。

筆者らはこれまでの考古学の研究成果にもとづいて、この遺跡の遺構を中心とした変遷を、以下のように区分している。

I 期 中世の在地武士伊丹氏の伊丹城時代（～天正2年（1574））

II 期 戦国大名荒木村重の有岡城時代および池田之助（元助）の第二期伊丹城時代（天正2年（1574）～天正11年（1583））

III 期 近世の伊丹郷町時代（天正11年（1583）～明治時代中頃）

IV 期 近代（明治時代中頃～）

また、III期は次のように細分している。

- Ⅲ－1期 16世紀末（天正11年（1583））～17世紀中頃
 - a 16世紀末（天正11年（1583））～17世紀初頭
 - b 17世紀前半～中頃
- Ⅲ－2期 17世紀後半～18世紀後半
 - a 17世紀後半～18世紀初頭
 - b 18世紀前半～18世紀後半
- Ⅲ－3期 18世紀後半～19世紀後半
 - a 18世紀後半～19世紀初頭
 - b 19世紀前半～19世紀後半

本論のミニチュア土製品の様相を述べるにあたっては、遺跡の様相の変化との関係をつかむ意味から、この時期区分にもとづいて行いたい。

2. 有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土のミニチュア土製品

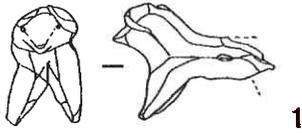
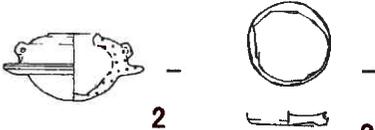
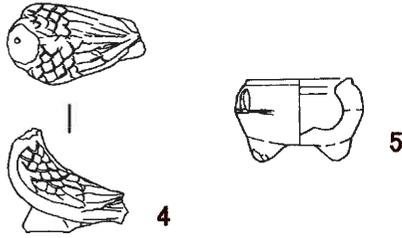
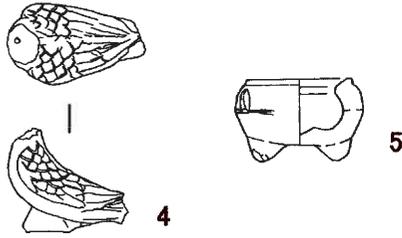
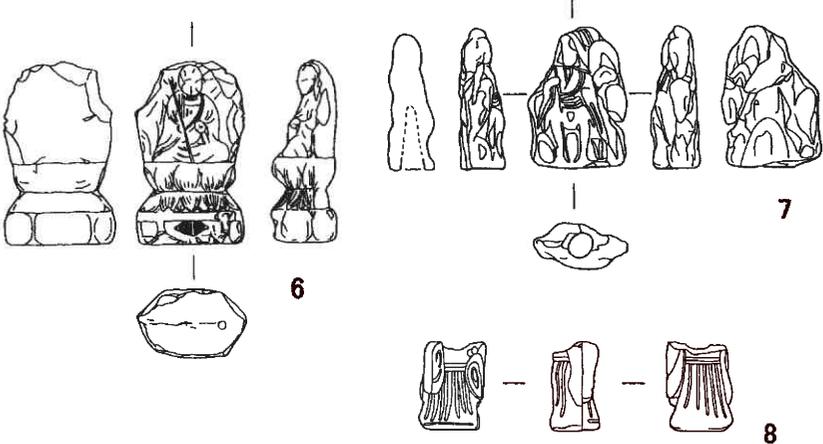
ここでは、有岡城跡・伊丹郷町遺跡で出土したミニチュア土製品について、上記の時期区分にしたがって説明し、その種類や製作技法・胎土の別、出土状況を説明しつつ、各時期の様相の特徴を述べたい。

(1) 近世初頭から前期のミニチュア土製品

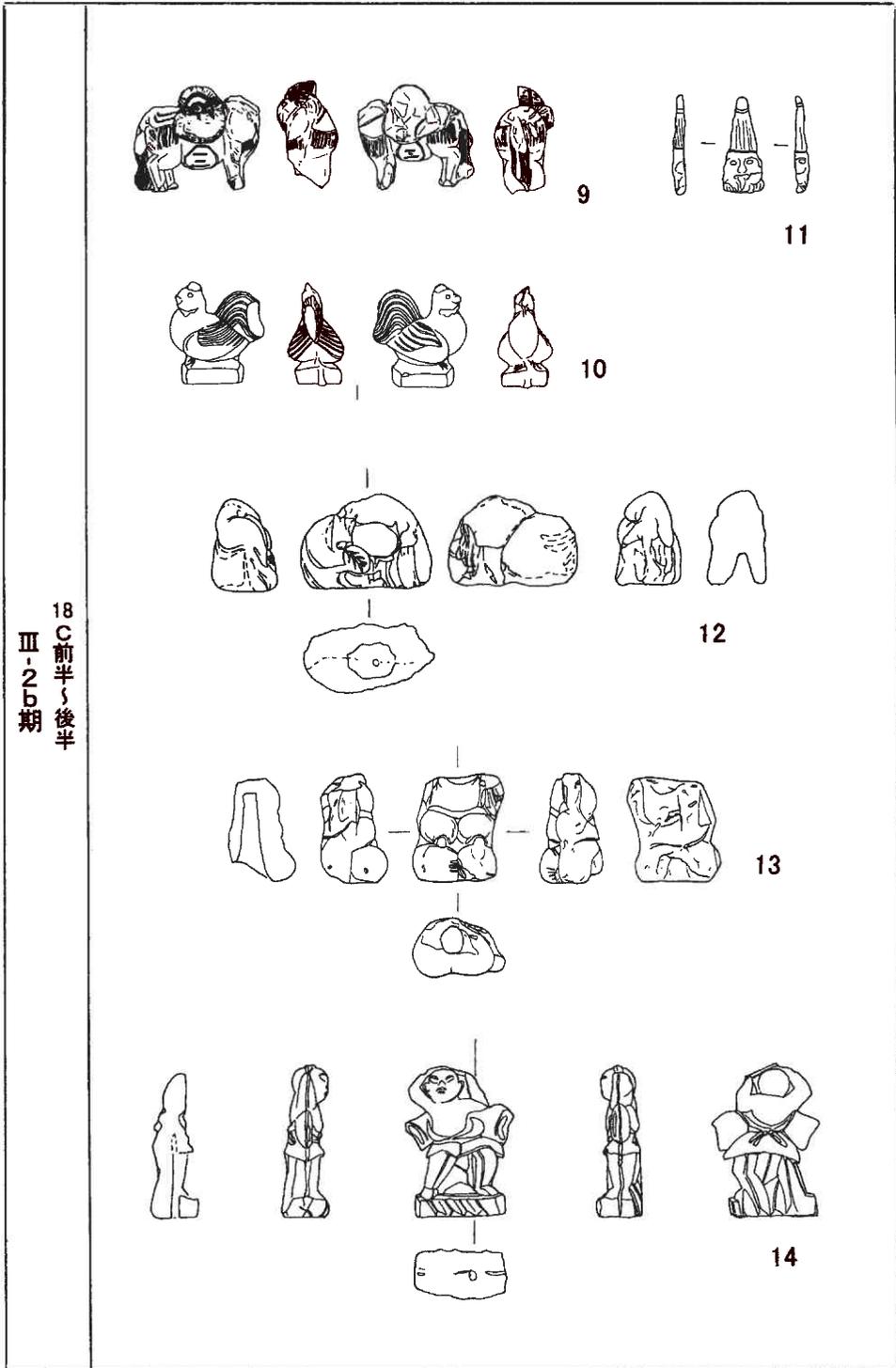
有岡城跡・伊丹郷町遺跡でもっとも古いミニチュア土製品は、Ⅱ期（天正2年〈1574〉～天正11年〈1583〉）の有岡城跡から出土した、犬型土製品（第1図－1－1）である。これは、白色の精良な胎土で手づくねによって作られている。この犬型土製品は、有岡城跡を始め、西日本各地の城郭や城下町で出土している。しかし、これは後に続かずに消えていく。

次いで、Ⅲ－1期中頃（17世紀初頭～前半）には、瓦質のミニチュア茶釜（第1図－1－2）や、陶磁器の底部を円形に加工した面子らしきものが見られる（同図－3）。2点とも、同じ第117次調査B－14区竈SV01から出土した。茶釜は、手づくね成形、鏝部より上はヘラミガキ調整、下部はナデ調整が施される。鏝はハリツケである。室町時代には地鎮祭祀の炊事具として土釜が用いられており、この頃に見られるミニチュアの土釜もそのような炊事にまつわる祭具として用いられた可能性がある。これは茶釜型であるが、同様の祭具である可能性がある。中世の系譜を引くこのような土釜は後に続かないが、面子は江戸時代に引き継がれていく。

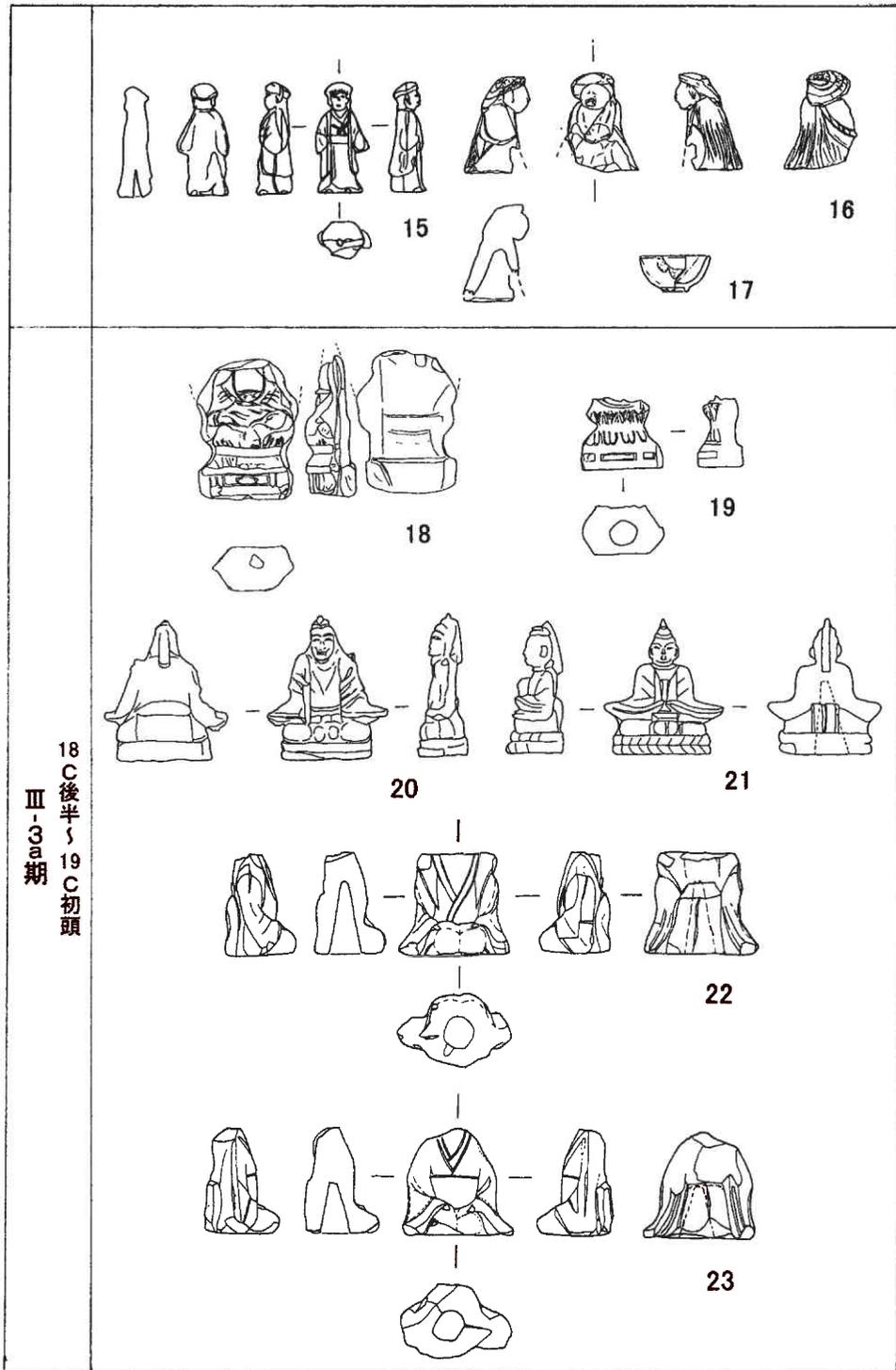
江戸時代前期のⅢ－1b期（17世紀前半～中頃）には、京都や堺などで土人形が出土するようになる。しかし、伊丹郷町遺跡では17世紀後半まではほとんど見られない。

<p>II期 16C後半</p>	
<p>III-1a期 16C末〜17C初頭</p>	
<p>III-1b期 17C前半〜後半</p>	
<p>III-2a期 17C後半〜18C初頭</p>	
<p>III-2b期 18C前半〜後半</p>	

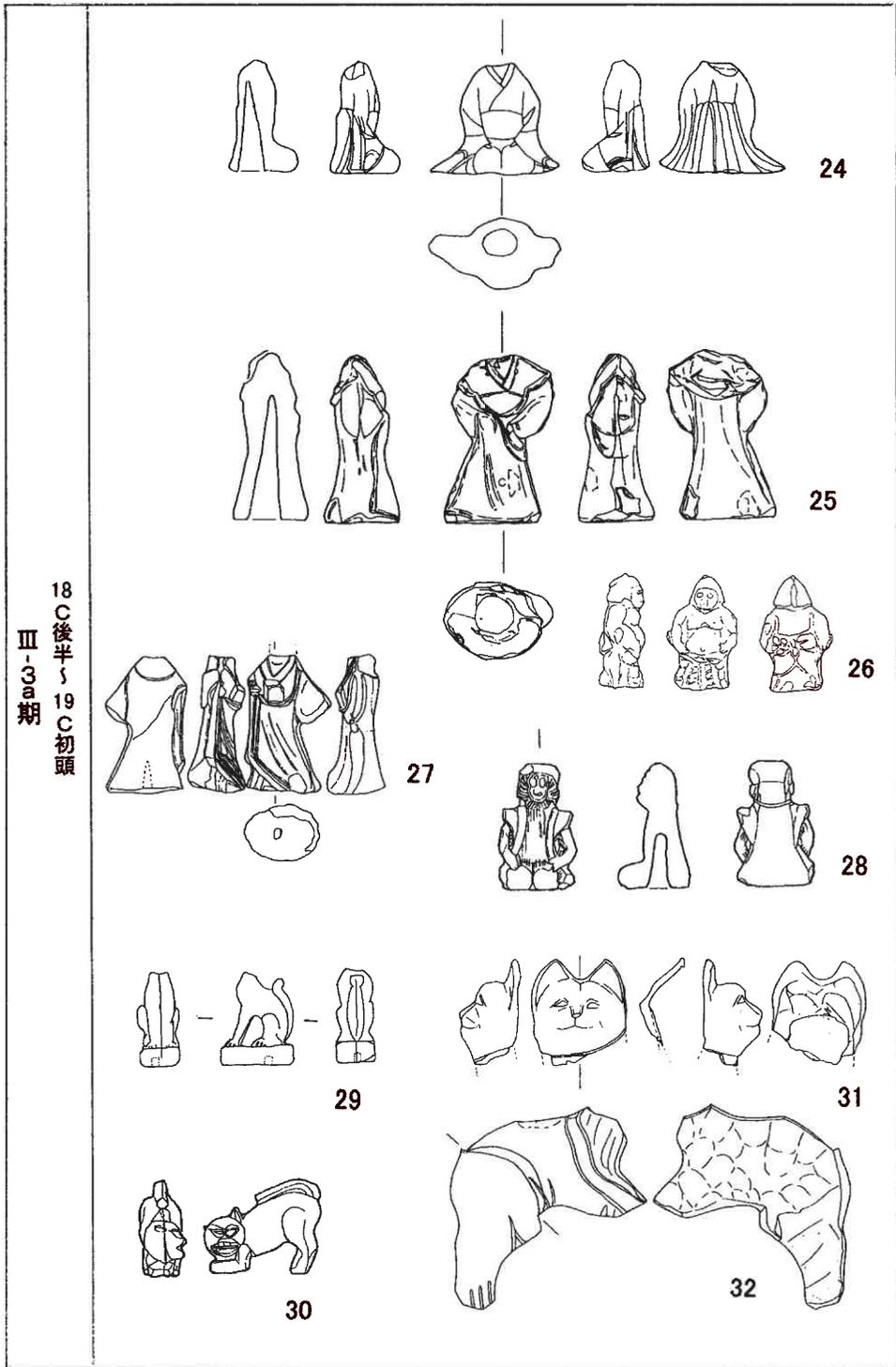
第1図-1 ミニチュア土製品変遷図1 (S=1/3)



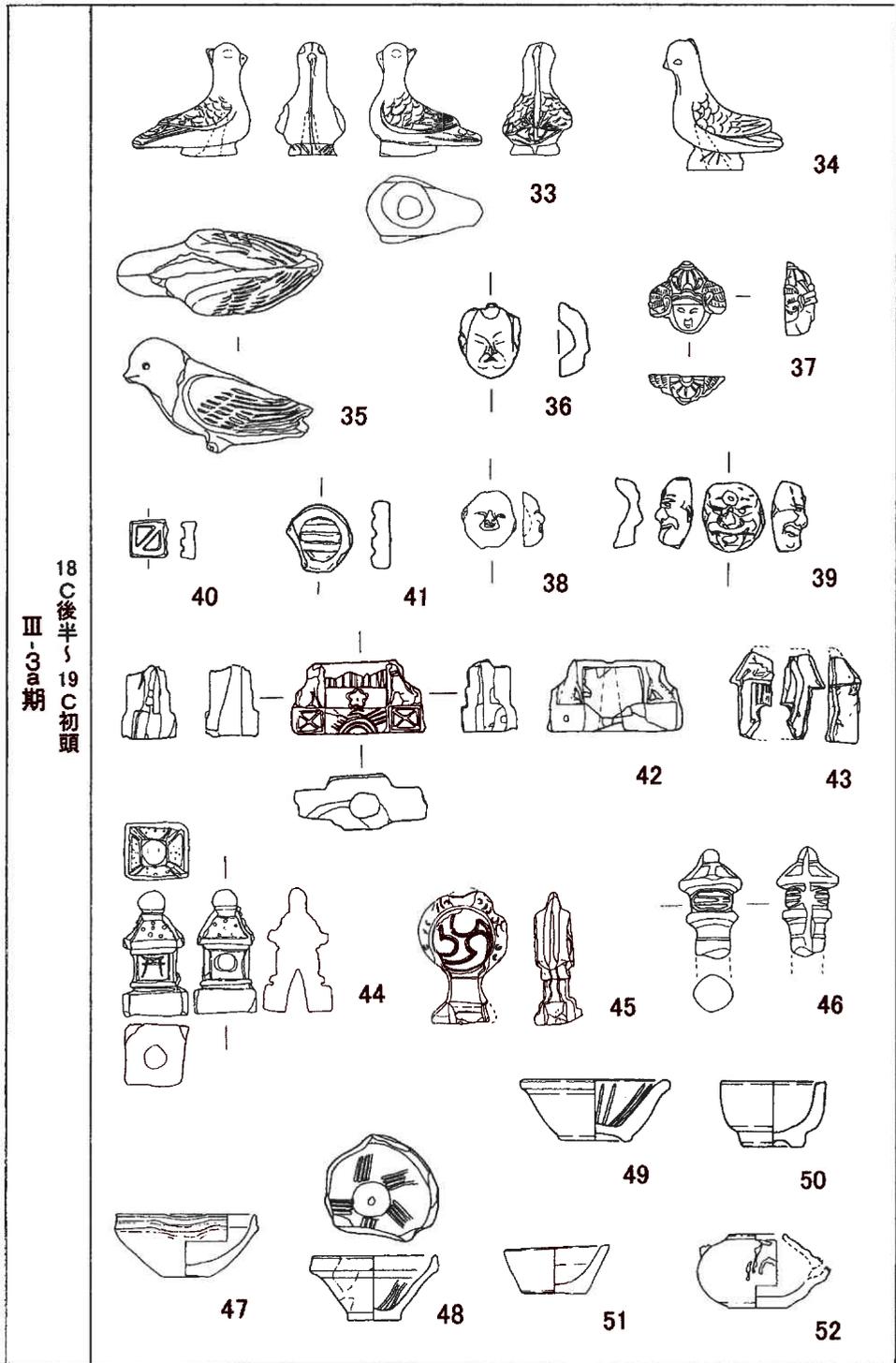
第1図-2 ミニチュア土製品変遷図2 (S=1/3)



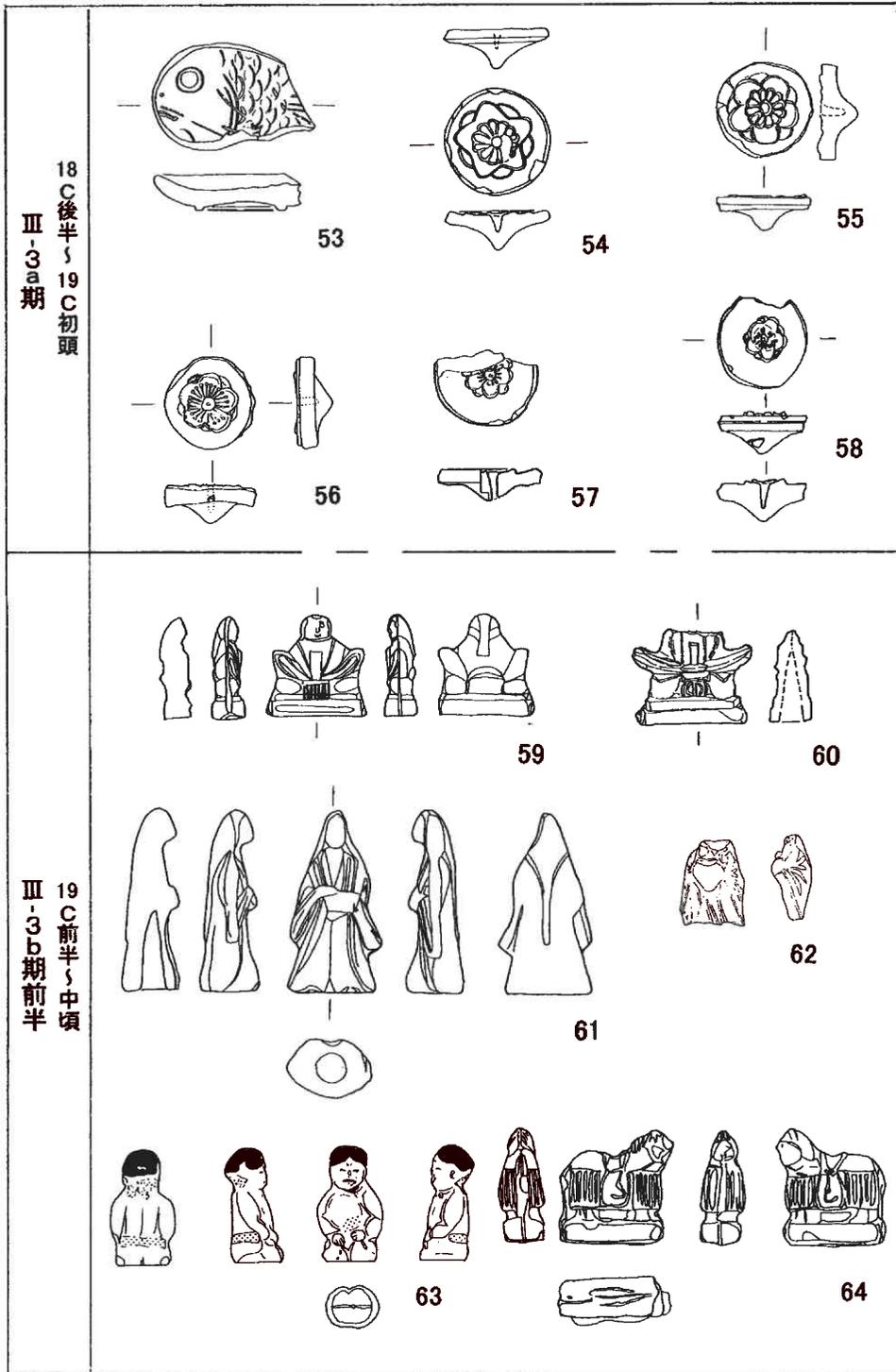
第1図-3 ミニチュア土製品変遷図3 (S=1/3)



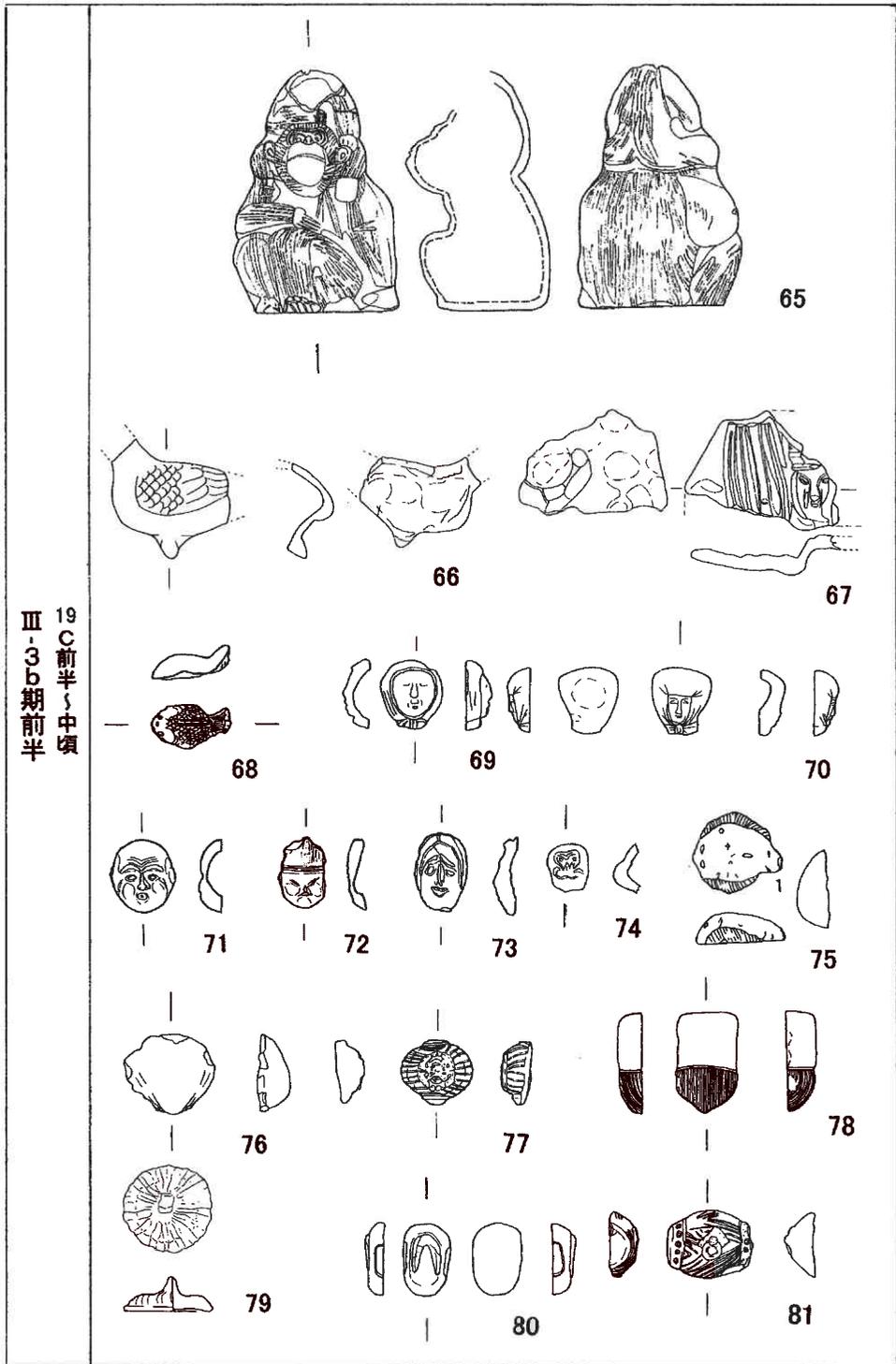
第1図-4 ミニチュア土製品変遷図4 (S=1/3)



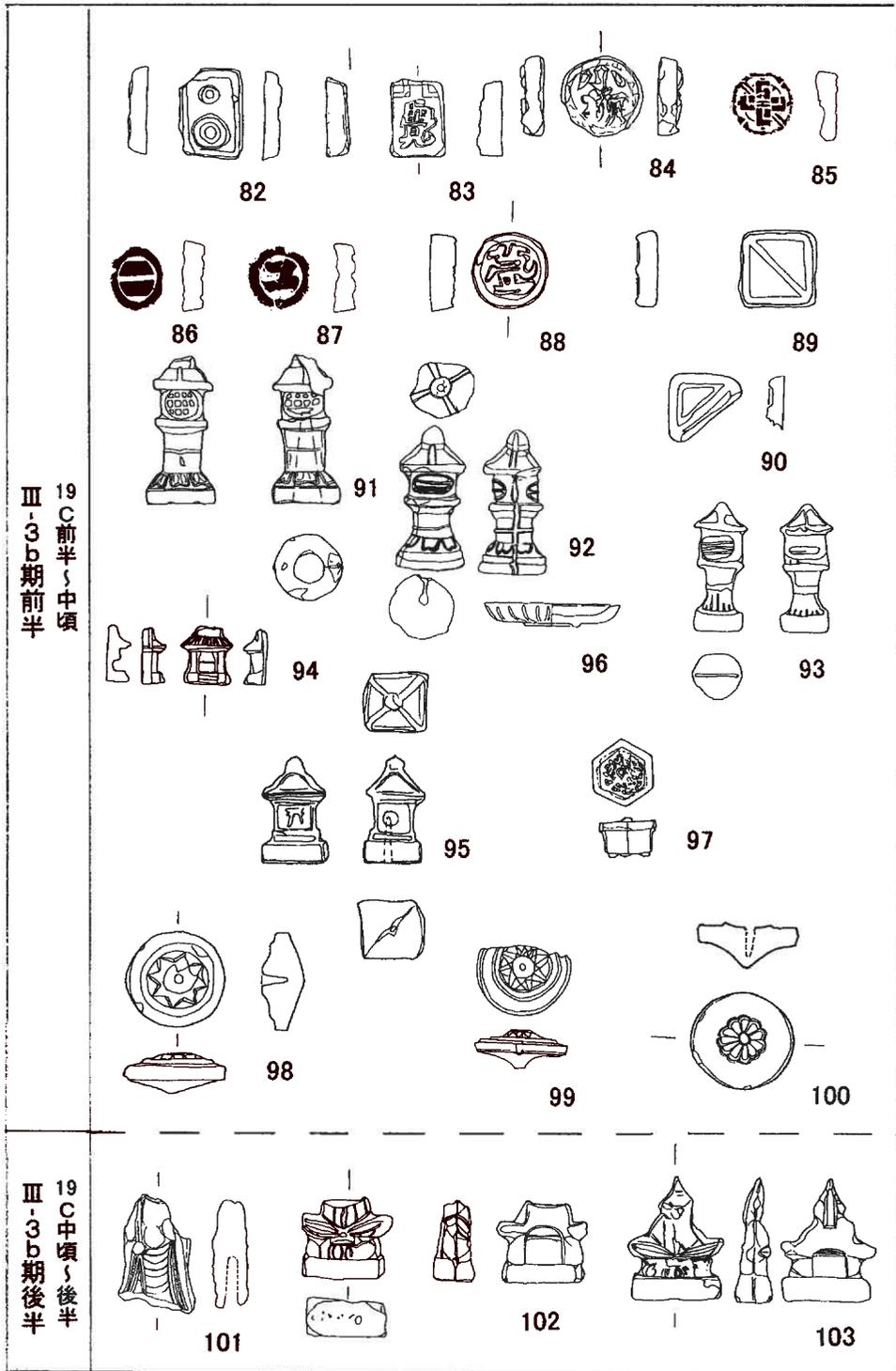
第1図-5 ミニチュア土製品変遷図5 (S=1/3)



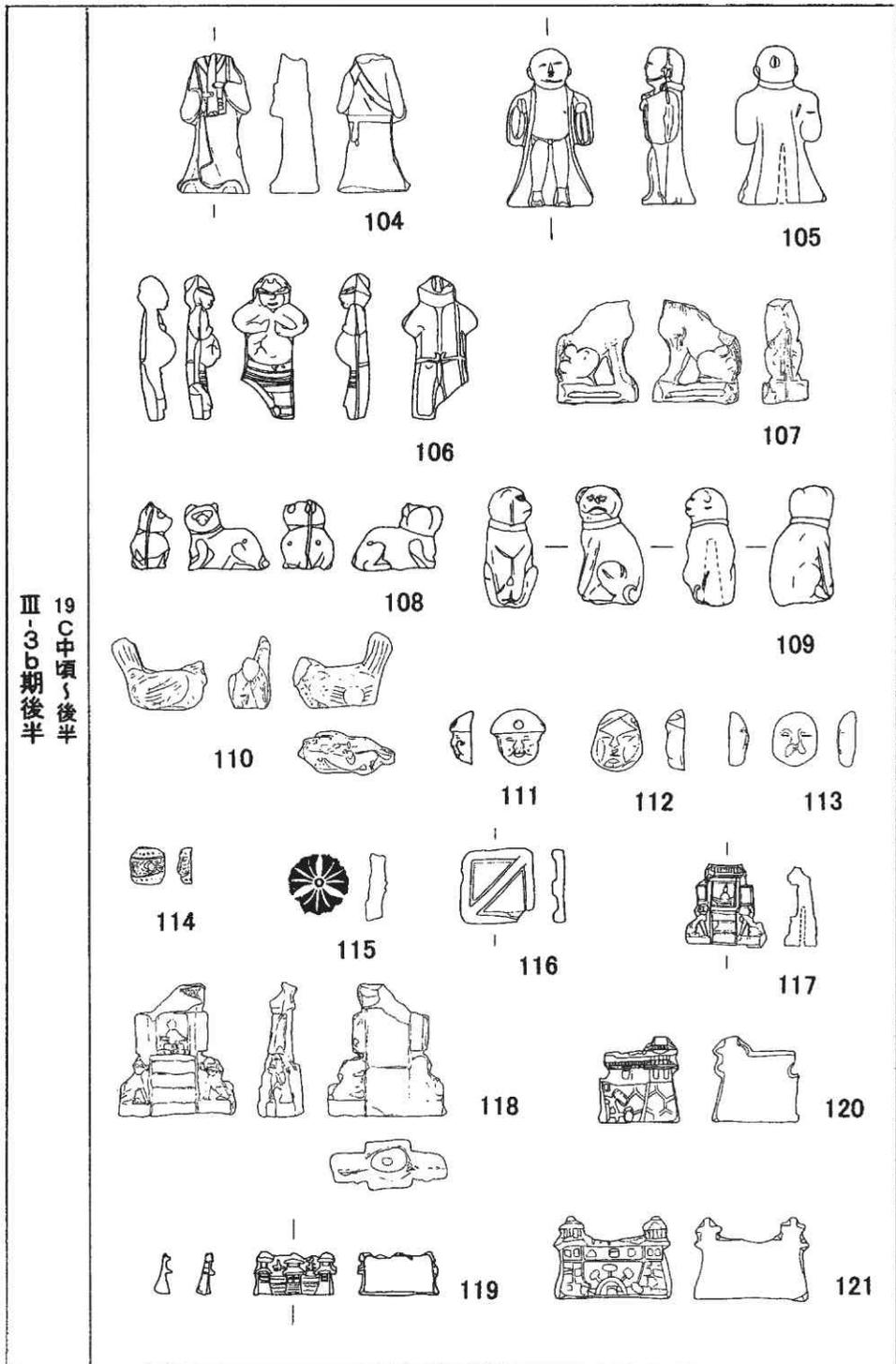
第1図-6 ミニチュア土製品変遷図6 (S=1/3)



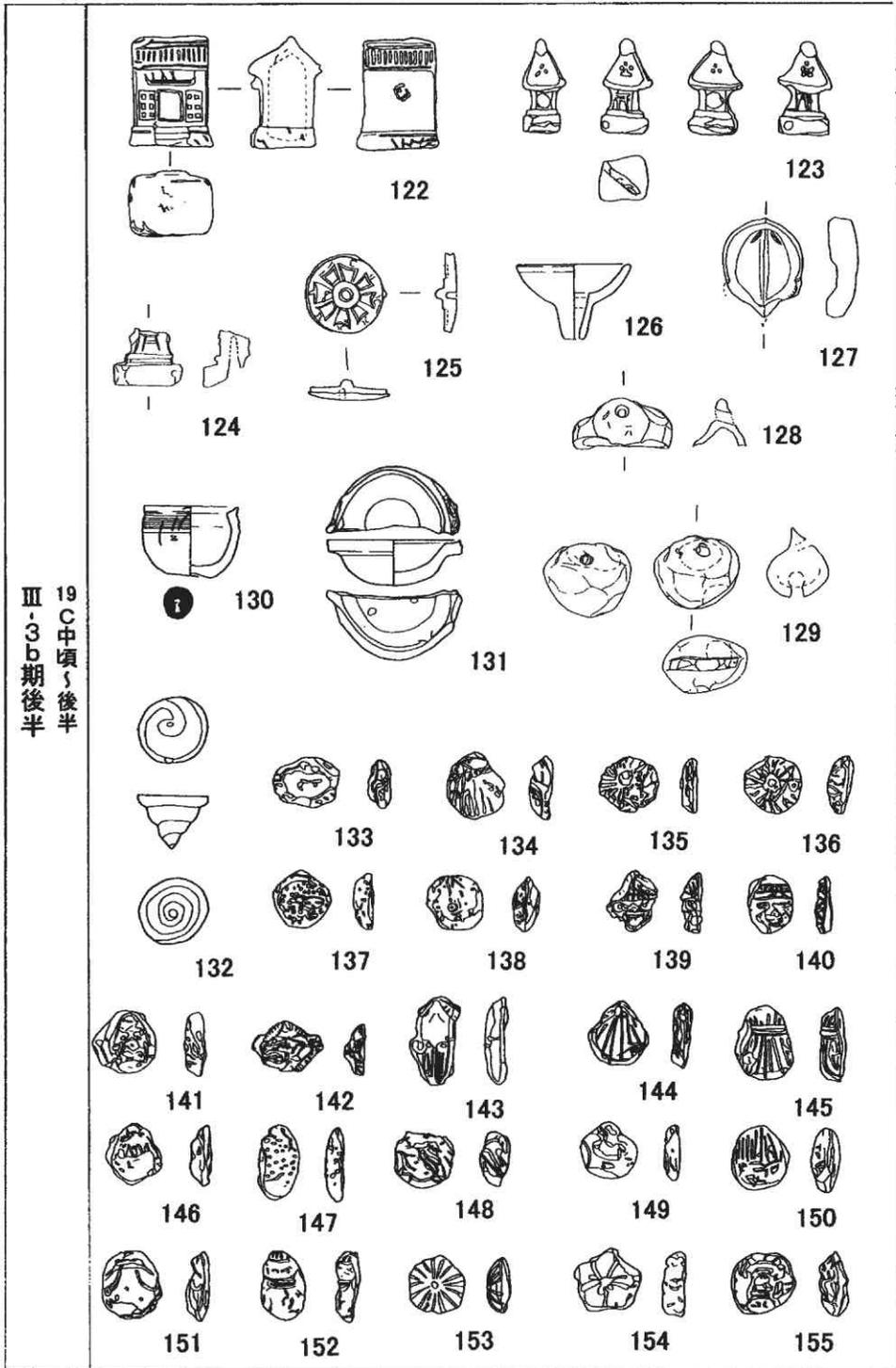
第1図-7 ミニチュア土製品変遷図7 (S=1/3)



第1図-8 ミニチュア土製品変遷図8 (S=1/3)

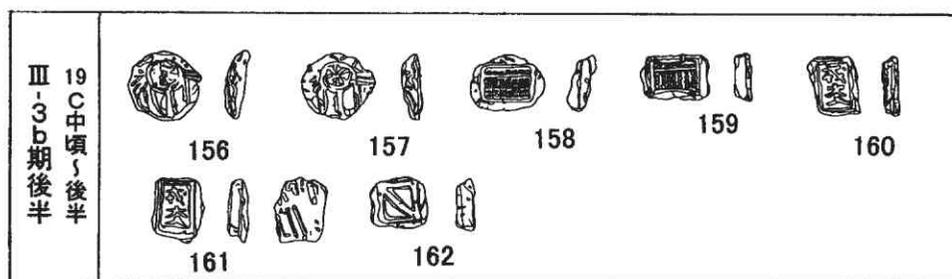


第1図-9 ミニチュア土製品変遷図9 (S=1/3)



第1図-10 ミニチュア土製品変遷図10 (S=1/3)

有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土のミニチュア土製品-1



第1図-11 ミニチュア土製品変遷図11 (S=1/3)

(2) 江戸時代中期

①中期前半

江戸時代中期前半のⅢ-2a期(17世紀後半～18世紀初頭)には、各地で土人形が増加し、種類も増える。伊丹郷町遺跡でも、17世紀後半以降に合わせ型を用いた、型合わせ成形の鳩(第1図-1-4)や手づくねのミニチュア香炉(同図-5)なども見られるようになる。しかし、その量や種類は、大都市と比較すると非常に少ない。

②中期後半

中期後半の早い時期のⅢ-2b期前半(18世紀前半)になると、ようやく出土量は増加し、仏像(第1図-1-6・8)や神馬(第1図-2-9)、鶏(同図-10)、西行(第1図-1-7)などが見られる。これらは、いずれも表、裏の型を用いて粘土をつめて成形する、型合わせ成形である。このうち仏像(第1図-1-6)や神馬(第1図-2-9)は内部が粘土で満たされた中実で底部に小さな棒状穿孔が見られ、精良な胎土を用いて淡褐色の焼き上がりを見せる。鳩(第1図-1-4)も同様である。これをA類と呼ぶ。西行は中実であるが、底部の穿孔が円錐状で大きく、胎土が荒く金雲母を含み、赤褐色の焼き上がりを見せる。これをB類と呼ぶ。このころは、この2種類があり、中実のA類が多い。底部の穿孔は、焼成時に焼き上がりを良くするためと考えられているが、棒状穿孔は型合わせ時の支柱とも考えられる。

また種類としては、どちらも仏像などの宗教的な信仰や盗難除けに効くとされた西行のように縁起ものに関わる種類が主体を占める。

Ⅲ-2b期後半(18世紀後半)になると、さらに種類が増え、火難厄除を願う布袋(第1図-2-12)、財福、商売繁盛を願う大黒(同図-13)や子供の健康を願うとされる奴(同図-14)など縁起物が目立つようになる。いずれも型合わせによっている。

これらのミニチュア土製品は、後述する伏見人形の製作工程と同様の工程で生産されたものと考えられる。すなわち、大蔵永常の著した『広益国産考』¹⁰⁾のように、①粘土を採取して練り、②原型から表裏の型を作り、③粘土の型離れをよくするために白雲母のキラコをつけて型に粘土を詰めて張り合わせ、④窯で焼成し、⑤胡粉を塗り、⑥彩色をして仕上げる(第2図)。焼成用の窯は、『広益国産考』では瓦窯のようなドーム状の天井部を持ち、横に焚き口を持つものが描かれているが、円筒形で上部が開いたいわゆる「だるま窯」¹¹⁾も用いられている。

「だるま窯」は、伊丹郷町遺跡でも2ヶ所¹²⁾で発掘されている。しかし、これらは焙烙生産に用いられたものである。また、販売方法は、伏見では寺社の門前で¹³⁾の販売や人形屋が知られている。しかし、伊丹郷町では、いまだ不明である。



①土を臼で搗く



②原形から外型を作る



③外型に粘土を詰めて貼り合わせる



④窯で焼成する



⑤胡粉を塗る



⑥彩色をする

第2図 『広益国産考』伏見人形制作工程

(3) 江戸時代後期

江戸時代後期には、一気に種類と量が増す。この時期は前後2時期に細分することが可能である。

①後期前半

後期前半のⅢ-3a期(18世紀後半～19世紀初頭)には、前代からある仏像(第1図-3-18・19)に加えて、学業向上を願う天神(同図-20・21)、魔よけの猿(第1図-4-28)、開運厄除の稲荷=狐(同図-29)、安産の犬(同図-31・32)、子供の虫落としに効くとされた鳩(第1図-5-35)など庶民の信仰に結びつく縁起ものが多い。犬(31・32)は大型で内部が空洞となる中空である。

仏像(第1図-3-18)は穿孔が小さく、胎土は精良であるが、白雲母のキラコが表面に多く付着し、B類とは違う。これをC類とする。

このほか男雛(第1図-3-22)、女雛(同図-23・第1図-4-24)、太夫(同図-25・27)、力士(同図-26)なども見られる。男雛(22)、女雛(23)は、神社(42)とともに第51次調査A-1区土坑SK705から、セットで出土している。上巳の節句は平安時代に遡るが、雛祭りとして雛人形が用いられ、雛人形が定型化するのには、江戸時代に入ってからである。古くは公家や上級武士の家で飾られ、庶民には江戸時代中期から広がる。木彫りや布製の雛人形が享保年間頃から普及するが、その影響でこのような土人形の雛人形も生産されるようになっていったと考えられる¹⁴⁾。力士については、伊丹郷町ではこの頃から相撲興行が盛んとなっており、その影響かもしれない¹⁵⁾。

この時期には、胎土が精良で淡褐色でありながら、穿孔が円錐状で大きいものが加わり主流を占めるようになる。男雛(22)、女雛(23)・(24)、太夫(25)などである。これらをD類と呼ぶ。

大型で中空の犬(31・32)の2点は、いずれも胎土が精良で、内面には外型に向かって粘土を押し付けた凹凸が著しい。このうち(31)は白色、(32)は淡赤褐色で、同一個体ではない。京都の伏見人形の可能性がある。これらをE類と呼ぶ。

人物の顔をかたどった土面子(第1図-5-36～39)もこの頃から出現する。これらは裏が窪んでおり、片面の型に粘土を押し付ける型押しによって製作されたものである。裏の窪みを指につけて、指人形のようにして遊んだとされる。このうち、(36)と(38)は、白色で精良な胎土でよく似ており、同じ生産地の製品と考えられる。しかし、先のA～D類のものとは一致しない。この時期の製品は、胎土に多くの種類が見られ、分類に困難が伴う。おそらく、生産地が多数成立したものと考えられる。二引き文の面子(同図-41)など、平面で文様をかたどったものも出現する。これらも裏面は平滑で、片面の型を用いて型押しによって生産している。

器物の神輿(同図-44)、太鼓(同図-45)、燈籠(同図-46)は、神社(同図-42)

とともに神社に関わるものである。伊丹郷町には、郷町の氏神で素盞鳴尊すさのおのみことを祭る野々宮神社（猪名野神社）などがあり、神社信仰が盛んであった。底部の穿孔は、神輿（44）は円錐状で大きいが大鼓（45）、燈籠（46）は棒状で小さい。胎土もまちまちで、生産地は異なっている。

このほか、ままごと遊びに用いられた播鉢（第1図-5-47~49）や碗（同図-50）、土瓶（同図-52）、鯛皿（同図-53）なども加わる。このうち、播鉢（47）・（48）、鉢（51）、土瓶（52）はロクロ成形である。また土瓶（52）は、外面に白色釉がかかり、鉄絵で文様を描く。播鉢（49）、碗（50）は、型作りで、後にヨコナデを施す。これらは前述のミニチュア土製品とも、同じままごと道具同士とでも胎土が一致しない。播鉢（47）、鉢（51）などは精巧で、実物大の製品を生産する窯業地の製品である可能性が高い。

遊び道具の独楽こまは、菊花が大きいもの（第1図-6-54~56）と小さいもの（同図-57・58）が見られる。これらは、上下の合わせ型によって製作されている。中央部には、軸を差し込む穴が設けられる。

これらのうち、婦人立像の太夫（27）、犬（31）、犬（32）、神輿（44）、播鉢（47）、独楽（56）は、同じ第27次調査井戸SE03から、一括出土したものである。また、雉（33）、土面子男性（38）、燈籠（46）、鉢（51）、鯛皿（53）、独楽（55）も第27次調査井戸SE10から一括出土している。調査地は、この時期は町屋である。また、仏像（19）、天神（21）、狐（29）、雉？（34）、鳩（35）も第34次調査土坑SK113からまとまって出土している。前述のように、これらの製作技術、胎土はまちまちであり、一ヶ所で購入されたのではなく、さまざまなところから集められたものであろう。

この時期から、このようにひとつの遺構からまとまって出土する例が目立ってくる。内容的にも碗や鉢、皿、独楽といった、いわゆる玩具的なものが含まれるようになる。このような状況は、玩具として用いられたことを示していると考えられる。

②後期後半

後期後半でも早い時期のⅢ-3b期前半（19世紀前半～中頃）には、一層量と種類が増し、多彩なものが見られるようになる。

天神（第1図-6-60）、女子立像（同図-61）は円錐状穿孔が見られる。天神（59）、神馬（64）は穿孔がない。

鳩（第1図-7-66）、火消しか天女？（同図-67）は大型の中空のものである。鳩（66）は、胎土が大型の犬（32）に似る。（67）は表面に白雲母のキラコが多く残る。いずれも伏見人形の可能性がある。

磁器製の童子（第1図-6-63）なども見られる。これは頭を黒色、首を緑色、腹を

丸く赤色、腰を黄色に着色されている。親子猿（第1図-7-65）は備前焼の中空のものである。大型で、置物として用いられた可能性がある。

土面子も人面類（第1図-7-69~73）のほか、猿（同図-74）、ひらめ（同図-75）や貝（同図-76）などの魚介類、提灯（同図-77）、筆（78）、菅笠（同図-79）、草履（同図-80）、太鼓（同図-81）、竈（第1図-8-82）などの器物類、「覚」（同図-83）、「小柳」（同図-84）、「鷺」（同図-88）などの文字類、くつわ文（同図-85）、二の字（同図-86）、ユの字（同図-87）など文様類、枅形（同図-89・90）など多彩なものが出土するようになる。これらは、いずれも裏面は平滑で、片面の型押しによって生産されている。

このうち、童子（63）、土面子婦人（69・70）、猿（74）、ひらめ（75）、貝（76）、提灯（77）、筆（78）、草履（80）、太鼓（81）、竈（82）、「覚」（83）、「小柳」（84）、燈籠（91）、独楽（99）は、第78次B-8区SK01から一括して出土した。土面子が多く、セットで用いられた可能性が高い。また、(70)、(75)、(76)、(77)、(78)、(81)、(83)は赤褐色の同様の胎土を持ち、生産地が同じであると考えられる。

独楽は、文様が幾何学文の（同図-98・99）のようなものが多くなる。（99）の上面には白色の胡粉が残る。

燈籠（第1図-8-92）、神輿（同図-95）は棒状穿孔、燈籠（同図-91）は円錐状穿孔、燈籠（同図-93）は穿孔がない。

後期後半の遅い時期、Ⅲ-3b期後半¹⁶⁾（19世紀中頃~後半）には、さらに種類が増え、大坂などと比べても大差がなくなる。地蔵（第1図-8-101）や天神（同図-102・103）などの他、虚無僧（第1図-9-104）、おぼこ（同図-105）、力士（同図-106）などの人物像。狐（同図-107）や犬（同図-108・109）、鳩（同図-110）などの動物。土面子の人面類（同図-111~113）など、前代から見られるものの他、淀城（同図-120・121）や蔵（第1図-10-122）など箱庭道具も豊富になる。

このうち、地蔵（101）、天神（102）、力士（106）、神社（117・118）は、棒状穿孔が施される。犬（109）、神輿（124）は円錐状穿孔である。一方、犬（108）、神輿（123）は穿孔がない。このように、底部の穿孔は、江戸時代を通じて、棒状穿孔と円錐状穿孔、そして穿孔のないものの3種が認められる。

このほか、この時期の特徴として、芥子面子が増える。（第1図-10-133~第1図-11-162）は第63次調査D-2-2区竈SV01-Bから一括して出土したものである。その種類は蟹^{かに}（第1図-10-133）、貝（同図-134）、鮎^{ひらめ}（同図-142）、烏賊^{いか}（同図-143）などの魚介類、菊花（同図-135・136・153）、桔梗（同図-154）などの花類、桃（同図-137・138）、蜜柑（同図-146）などの果物類、瓜（同図-147）、瓢箪（同図-152）などの野菜類、奴（同図-139・140）など人物、算盤（第1図-11-158・159）、打出

の小槌（第1図-10-155）などの器物類、戎大入り袋（第1図-11-160・161）など多種類にわたる。同一種類が2個ずつあるのは、2人で遊んだものか。これらは、胎土・焼成が似通っているものが多く、ある程度同じところで生産されたものと考えられる。

多くの土人形は、陶磁器などとともに廃棄された状態で出土するが、このように一括で大量の土人形が出土するのは、江戸後期の特徴である。

まとめ

上記の有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土品は、他の遺跡と比較すると、どのような特徴があるのだろうか。最後にこの点に触れて、まとめとしたい。

他の遺跡と比較すると、京都は、一大生産地伏見を中心として、江戸時代前期より多彩である。独自の「つぼつぼ」、「でんぼ」のほか、さまざまなものが見られる。¹⁷⁾

堺も17世紀中頃より各種のミニチュア土製品が見られる。¹⁸⁾

江戸は関西の影響を受けて17世紀後半より次第に量や種類を増してゆく。¹⁹⁾ 土器生産地今戸を始め、江戸後期には一部の藩の江戸屋敷で内職として生産されるなど、生産形態も多彩である。種類は次第に独自性を持つようになる。

これらの地域と比較すると、伊丹郷町遺跡では盛行する時期が江戸時代中期のⅢ-2 a期（17世紀後半～18世紀初頭）以降と遅く、種類も限定されている。Ⅲ-2 b期前半（18世紀前半）までに見られるものは、仏像など信仰に関わるものや、神馬・西行など縁起物が中心であった。Ⅲ-2 b期後半（18世紀後半）になると、さらに種類が増え、火難厄除を願う布袋、財福、商売繁盛を願う大黒や子供の健康を願うとされる奴など縁起物が中心となる。製作技法もA～E類の5種類に分類できる。

江戸時代後期のⅢ-3 a期（18世紀後半～19世紀初頭）には種類も増し、この頃に盛行した雛祭りの男雛・女雛や相撲興行の影響を受けたと思われる相撲取りなど、時流を反映するものも加わる。また、土面子が急増する。胎土・焼成は多彩を極め、分類が不可能になる。出土状況も複数個体が一括して出土するようになり、ままごと遊びに用いられたと考えられる碗、皿、あるいは独楽など、玩具として用いられたと考えられる例が多くなる。

Ⅲ-3 b期前半（19世紀前半～中頃）には、一層量と種類が増し、磁器製や陶器製のものも加わる。土面子は、さらに多彩になり、2組セットで用いられた一括出土品なども見られるようになる。Ⅲ-3 b期後半（19世紀中頃～後半）には、さらに種類が増え、大坂などと比べても大差がなくなる。箱庭道具も豊富になる。このほか、芥子面子が増えることも、この時期の特徴である。

種類は、堺環濠都市遺跡や大坂城下町と似ている。これら近隣の大都市の影響を受け

て、流通したものと考えられる。また、江戸中期には信仰物や縁起物が中心であったものが、江戸後期にはままごと遊びや、独楽、面子、箱庭道具など、玩具色が強まっていく。このような傾向も、他の遺跡と共通する。

その中心となる土人形は、中世までは、多産・豊穡などを祈る道具、あるいは祭祀用具、あるいは呪具・形代として用いられたものが、江戸時代後期に至って、いわゆる玩具や鑑賞用としての色合いを強めていくのである。

有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土品には、今回報告できなかった未報告新資料がなお多く存在する。今後正式報告が刊行され次第、再度補稿する必要があると考えている。また、どこで生産され、どのように販売され、購入されたのかという問題は、なお残る。今は、上記した全体の傾向を指摘して、一旦筆を置きたい。(2008年11月30日 成稿)

謝辞

本論作成に当たっては、次の方々にご助力、ご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。伊丹市立博物館館長小長谷正治氏、伊丹市教育委員会中畔明日香氏・赤松和佳氏・岡野理奈氏・瀬川真美子氏・吉川敬子氏・宇野雄貴氏。特に赤松和佳氏、宇野雄貴氏は本論作成時に多大なご助力を賜った。

成稿後2008年12月13日に関西近世考古学研究会第20回大会「土人形が見た近世社会」が羽衣国際大学にて開催された。ここでも多くの知見を得たが成稿後のため成果を活かせなかった。改めて、後日を期したい。

注釈

- 1) 長野真一、大保秀樹、松尾勉、野間口勇、八木澤一郎、岩戸孝夫、元田順子、真鍋雄一郎、馬籠亮道、鮫島伸吾、山元真美子『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』(91) 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002年
- 2) 近藤義郎編『榊弥生墳丘墓の研究』榊楽刊行会 1992年
- 3) 斎藤良輔『日本人形玩具辞典』東京堂出版 1968年
- 4) 塩見青嵐『伏見人形』河原書店 1967年
- 5) 奥村寛純『伏見人形の原型 六代目丹嘉』丹嘉 1976年
- 6) ①安芸毬子「近世の土人形」『江戸在地系土器勉強会通信(仮称)7』江戸在地系土器勉強会 1989年
②安芸毬子「江戸遺跡に見る土人形—遺跡の性格と出土遺物」『江戸在地系土器の研究Ⅰ』江戸在地系土器研究会 1991年
③安芸毬子「掘り出された土人形」『考古学と江戸文化 江戸遺跡研究会第5回大会発表要旨』江戸遺跡研究会 1992年
④安芸毬子「成形技法から見る土人形」『江戸在地系土器の研究Ⅱ』江戸在地系土器研究会 1994年
⑤安芸毬子「まじないと遊び—出土した人形玩具にみる」『日本考古学協会第64回総会研究発表要旨』日本考古学協会 1998年

- ⑥安芸毬子「出土した人形と玩具」『加賀殿再訪』東京大学総合研究博物館 2000年
- ⑦安芸毬子「掘り出された人形」『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会、吉川弘文館 2000年
- 7) ①嶋谷和彦「人を象る遺物—考古資料に見られる“人形”—」『日本の人形』堺市博物館 1988年
- ②嶋谷和彦「織豊期の犬形土製品」『関西近世考古学研究Ⅰ』関西近世考古学研究会 1991年
- 8) 萩野典子「ミニチュア土製品」『いな の NO. 2』大手前女子大学史学研究所文化財調査室 1990年。伊丹郷町遺跡出土ミニチュア土製品の時期を考察し、他の遺跡出土品と比較するとともに、その利用法や生産地についても言及している。
- 9) 柚木 学『酒造りの歴史』雄山閣 1987年
- 10) 大蔵永常『広益国産考』岩波文庫 1946年
- 11) 奥村寛純『伏見人形の原型 六代目丹嘉』丹嘉 1976年、P 405 図版823。
- 12) ①小長谷正治「=資料紹介=伊丹郷町発見の焙烙窯」『関西近世考古学研究Ⅱ』関西近世考古学研究会 1992年
- ②山上雅弘他「有岡城跡・伊丹郷町遺跡第216次調査」『伊丹市埋蔵文化財調査報告書第30集 伊丹市埋蔵文化財調査報告書 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査』2005年
- 13) 注4) に同じ。
- 14) 野村朋子「江戸時代の人形—木彫を基本とする人形を中心に—」『日本の人形』堺市博物館 1988年
- 15) ①大国正美「近世伊丹における相撲興行の展開と民衆 (1)」『地域研究いたみ 第23号』伊丹市立博物館 1994年
- ②大国正美「近世伊丹における相撲興行の展開と民衆 (2)」『地域研究いたみ 第24号』伊丹市立博物館 1995年
- 16) ①宮本康治・川村紀子他『広島藩大坂蔵屋敷跡Ⅱ』(財) 大阪市文化財協会 2004年
- ②寺島孝一他『図説 江戸考古学研究事典』柏書房 2001年
- 17) 川口宏海『京都出土土人形』『歴史考古学を知る事典』東京堂出版 2006年
- 18) 嶋谷和彦注 7) ①、及び寺島孝一他『図説 江戸考古学研究事典』柏書房 2001年
- 19) 寺島孝一他『図説 江戸考古学研究事典』柏書房 2001年

参考・引用文献

- 1) 塩見青嵐『伏見人形』河原書店 1967年
- 2) 奥村寛純『伏見人形の原型 六代目丹嘉』丹嘉 1976年
- 3) 藤井直正・川口宏海他『有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ』大手前女子学園有岡城跡調査委員会 1987年
- 4) 山田徳兵衛『図説 日本の人形史』1991年
- 5) 藤井直正・川口宏海他『有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-1分冊』大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会 1992年
- 6) 藤井直正・川口宏海他『有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-2分冊』大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会 1992年
- 7) 小長谷正治他『伊丹市埋蔵文化財調査報告書第16集 有岡城跡発掘調査報告書Ⅷ』伊丹市教育委員会 1992年
- 8) 小長谷正治他『伊丹市埋蔵文化財調査報告書第18集 有岡城跡発掘調査報告書Ⅸ』伊丹市教育委員会 1993年
- 9) 藤井直正・川口宏海他『有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅲ』大手前大学史学研究所・

- 伊丹市教育委員会 1994年
- 10) 藤井直正・川口宏海他『有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ』大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会 1995年
 - 11) 藤井直正・川口宏海他『有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ』大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会 1995年
 - 12) 藤井直正・川口宏海他『有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅵ』大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会 1999年
 - 13) 藤井直正・川口宏海他『有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅶ』大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会 2001年
 - 14) 小長谷正治他『伊丹市埋蔵文化財調査報告書第29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査』伊丹市教育委員会 2004年

有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土のミニチュア土製品一

伊丹郷町遺跡出土ミニチュア土製品一覧表

NO.	出土地区	遺構名	名称	遺物時期区分	遺構年代	所見	出土文献	図版/P	調査主体	発行年
第1図 1-1	3次	表土	犬	Ⅱ期	16世紀後半		関西近世考古学研究Ⅰ	7図/P 80	伊丹市教育委員会	1991
第1図 1-2	117次B- 14区	SV01	瓦質茶釜	Ⅲ-1期	17世紀初頭～ 前半	手づくね	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅶ	第56図-3 /p 60	伊丹市教育委員会	2001
第1図 1-3	117次B- 14区	SV01	面子	Ⅲ-1期	17世紀初頭～ 前半	瀬戸美濃焼天 目碗底部	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅶ	第56図-2 /p 60	伊丹市教育委員会	2001
第1図 1-4	53次	溝1	鳩	Ⅲ-2 a 期	17世紀後半～ 18世紀初頭		有岡城跡発掘調査報告 書Ⅹ	図18-156	伊丹市教育委員会	1993
第1図 1-5	117次A- 7区	SK214	練り込み 手香炉	Ⅲ-2 a 期	17世紀後半～ 18世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅶ	第32図-5 /p 35	伊丹市教育委員会	2001
第1図 1-6	45次 Ⅱ-B区	SK07	地蔵	Ⅲ-2 b 期	17世紀後半～ 18世紀前半	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅲ	第72図-2 /p 43	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1994
第1図 1-7	51次D- 2区	SX201	西行	Ⅲ-2 b 期	17世紀末～18 世紀中頃	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅴ	第148図- 6/p 153	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1997
第1図 1-8	53次	土坑53	地蔵	Ⅲ-2 b 期	17世紀末～18 世紀前半		有岡城跡発掘調査報告 書Ⅹ	図16-124	伊丹市教育委員会	1993
第1図 2-9	45次 Ⅱ-B区	SK114	依積馬	Ⅲ-2 b 期	17世紀後半～ 18世紀中頃	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅲ	第81図-1 /p 45	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1994
第1図 2-10	45次 Ⅱ-C区	SB04	鶏	Ⅲ-2 b 期	17世紀後半～ 18世紀前半	穿孔なし	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅲ	第18図-4 /p 18	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1994
第1図 2-11	34次	井戸9	男性 (戎?・化 物)	Ⅲ-2 b 期	17世紀後半～ 18世紀前半	大坂広島藩藏 屋敷に出上例 図版431097	有岡城跡発掘調査報告 書Ⅶ	第161図- 150/p 20	伊丹市教育委員会	1992
第1図 2-12	51次A-1 区	SK680	布袋	Ⅲ-2 b 期	18世紀中頃～ 後半	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第122図- 6/p 88	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995
第1図 2-13	51次A-1 区	SK1151	大黒天	Ⅲ-2 b 期	18世紀中頃～ 後半	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第138図- 3/p 92	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995
第1図 2-14	63次D-4 区	SX404	奴	Ⅲ-2 b 期	18世紀前半～ 後半	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅴ	第162図- 2/p 169	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1997
第1図 3-15	51次B-2 区	SI510	おこそ頭 巾	Ⅲ-2 b 期	18世紀後半	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅴ	第88図- 14/p 91	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1997
第1図 3-16	123次D- 7区	SK377	大黒天	Ⅲ-2 b 期	18世紀中頃～ 後半	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅶ	第105図- 13/p 101	伊丹市教育委員会	2001
第1図 3-17	51次B-3 区	SX147	碗	Ⅲ-2 b 期	18世紀中頃～ 末	縁袖掛け	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅴ	第100図- 13/p 105	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1997
第1図 3-18	23次	SE03	釈迦	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第36図- 10/p 52	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 3-19	34次	SK113	仏像	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡発掘調査報告 書Ⅶ	第9図-59 /p 13	伊丹市教育委員会	1992
第1図 3-20	34次	SK105	天神	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡発掘調査報告 書Ⅶ	第9図-45 /p 13	伊丹市教育委員会	1992
第1図 3-21	34次	SK113	天神	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡発掘調査報告 書Ⅶ	第9図-61 /p 13	伊丹市教育委員会	1992
第1図 3-22	51次A-1 区	SK705	男子坐像	Ⅲ-3 a 期	18世紀中頃～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第140図- 8/p 93	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995
第1図 3-23	51次A-1 区	SK705	女子坐像	Ⅲ-3 a 期	18世紀中頃～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第140図- 7/p 93	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995
第1図 4-24	63次B-5 区	SE01上層	婦人坐像	Ⅲ-2 b ~3 a 期	18世紀前半～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅴ	第126図- 5/p 127	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1997
第1図 4-25	63次B-5 区	SE01上層	遊女立像	Ⅲ-2 b ~3 a 期	18世紀前半～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅴ	第126図- 6/p 127	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1997
第1図 4-26	17次	SE02	力士	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅰ	第50図- 18/p 55	大手前女子学 園有岡城跡調査 委員会	1987
第1図 4-27	27次	SE03	婦人立像	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第25図-9 /p 22	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 4-28	192次	SD1001	神鏡	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	伊丹市埋蔵文化財調査 報告書25巻 震災復 旧・復興事業に伴う発 掘調査	第15図- 55/p 19	伊丹市教育委員会	2004
第1図 4-29	34次	SK113	狐	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	棒状穿孔	有岡城跡発掘調査報告 書Ⅶ	第9図-64 /p 13	伊丹市教育委員会	1992
第1図 4-30	192次	SK2005	獅子	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		伊丹市埋蔵文化財調査 報告書25巻 震災復 旧・復興事業に伴う発 掘調査	第36図- 231/p 38	伊丹市教育委員会	2004

第1図 4-31	27次	SE03	犬(顔)	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第25図- 11/p 22	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 4-32	27次	SE03	犬(脚)	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第25図- 21/p 22	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-33	27次	SE10	雉	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第33図-1 / p 29	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-34	34次	SK113	雉?	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡発掘調査報告 書Ⅴ	第9図-63 / p 13	伊丹市教育委員 会	1992
第1図 5-35	34次	SK113	鳩	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡発掘調査報告 書Ⅴ	第9図-62 / p 13	伊丹市教育委員 会	1992
第1図 5-36	117次A- 6区	SU229	泥面子・ 武士	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅶ	第18図-4 / p 21	伊丹市教育委員 会	2001
第1図 5-37	34次	SK164	泥面子・ 兜武士	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半		有岡城跡発掘調査報告 書Ⅶ	第10図- 91/p 14	伊丹市教育委員 会	1992
第1図 5-38	27次	SE10	泥面子・ 男性	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第33図-2 / p 29	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-39	51次A-1 区	SX03	般若	Ⅲ-3 a 期	18世紀中頃～ 19世紀初頭	竈出土	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第201図- 7/p 118	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995
第1図 5-40	27次	SK06	面子・橋 形	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第46図-7 / p 39	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-41	23次	SK30	面子・二 ツ引	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第72図-4 / p 76	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-42	51次A-1 区	SK705	神社	Ⅲ-3 a 期	18世紀中頃～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第140図- 6/p 93	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995
第1図 5-43	23次	SK30	家	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第72図-5 / p 76	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-44	27次	SE03	神輿	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第25図-8 / p 22	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-45	27次	SK05	太鼓	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第46図-3 / p 39	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-46	27次	SE10	燈籠	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第33図-3 / p 29	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-47	27次	SE03	播鉢	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第25図-7 / p 22	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-48	51次A-1 区	SK780	播鉢	Ⅲ-3 a 期	17世紀末～19 世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第161図- 2/p 100	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995
第1図 5-49	35次	SP110	播鉢	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第28図-4 / p 96	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-50	35次	SP110	碗	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第28図-5 / p 96	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-51	27次	SE10	鉢	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	ろくろ成形	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第33図-4 / p 29	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 5-52	51次B-2- 1区	SK160	土瓶	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭	白色釉鉄絵	有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅴ	第59図-2 / p 61	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1997
第1図 6-53	27次	SE10	罎皿	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第33図-5 / p 29	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 6-54	51次B-2- 1区	SK160	独楽A類	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅴ	第59図-9 / p 61	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1997
第1図 6-55	27次	SE10	独楽A類	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第33図-7 / p 29	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 6-56	27次	SE03	独楽	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第25図- 10/p 22	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1992
第1図 6-57	51次A-2 区	SK128	独楽	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第292図- 5/p 148	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995
第1図 6-58	192次	SD1001	独楽	Ⅲ-3 a 期	18世紀後半～ 19世紀初頭		伊丹市埋蔵文化財調査 報告書29集 震災復 旧・復興事業に伴う発 掘調査	第15図- 56/p 19	伊丹市教育委員 会	2004
第1図 6-59	51次A-1 区	SE21	天神	Ⅲ-3 b 期前半	18世紀後半～ 19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発 掘調査報告書Ⅳ	第97図-7 / p 81	大手前女子大 学・伊丹市教育 委員会	1995

有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土のミニチュア土製品-1

第1図-6-60	192次	SD2001	天神	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半	円錐状穿孔	伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	第18図-116/p 22	伊丹市教育委員会	2004
第1図-6-61	51次A-1区	SE21	女子立像	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第97図-5/p 81	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-6-62	17次	SK47	大黒天?	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書I	第50図-12/p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図-6-63	78次B-8区	SK01	男子	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半	参考資料 肥前磁器	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-14/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-6-64	51次B-2区	SK722	神馬	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半	穿孔なし	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第80図-17/p 84	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-7-65	192次	SK2007	親子猿	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半	素焼	伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	第36図-254/p 39	伊丹市教育委員会	2004
第1図-7-66	35次	SE02	鳩	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半	大型	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書II-2分冊	第21図-26/p 91	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図-7-67	35次	SE02	火消し? 天女?	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書II-2分冊	第21図-26/p 91	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図-7-68	117次A-6区	SU05	金魚	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅵ	第25図-6/p 26	伊丹市教育委員会	2001
第1図-7-69	78次B-8区	SK01	泥面子・頭巾の婦人	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-3/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-7-70	78次B-8区	SK01	泥面子・頭巾の婦人	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-4/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-7-71	192次	SD2001	泥面子・老人	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	第18図-118/p 22	伊丹市教育委員会	2004
第1図-7-72	192次	SD2001	泥面子・大黒天?	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	第18図-119/p 22	伊丹市教育委員会	2004
第1図-7-73	192次	SD2001	女性	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	第18図-120/p 22	伊丹市教育委員会	2004
第1図-7-74	78次B-8区	SK01	猿	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-3/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-7-75	78次B-8区	SK01	ひらめ	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-1/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-7-76	78次B-8区	SK01	貝	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-2/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-7-77	78次B-8区	SK01	提灯	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-8/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-7-78	78次B-8区	SK01	筆	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-11/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-7-79	17次	SK47	蓄笠	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書I	第50図-16/p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図-7-80	78次B-8区	SK01	草履	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-6/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-7-81	78次B-8区	SK01	太鼓	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-7/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-82	78次B-8区	SK01	壺	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-5/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-83	78次B-8区	SK01	甕	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-9/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-84	78次B-8区	SK01	小御	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	第421図-10/p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-85	17次	SK47	面子・くつわ文	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書I	第50図-4/p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図-8-86	17次	SK47	面子・二ツ引	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書I	第50図-1/p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987

第1図-8-87	17次	SK47	面子・ユの字	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-2 / p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図-8-88	51次A-1区	SX14	面子・鷲	Ⅲ-3b期前半	19世紀前半～19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第73図-3 / p 68	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-89	97次B-13区	SK34	面子・枡	Ⅲ-3b期前半	19世紀前半～19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第134図-13 / p136	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-8-90	97次B-13区	SX14	面子・枡	Ⅲ-3b期前半	19世紀前半～19世紀中頃	竈出土	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第139図-11 / p141	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-8-91	78次B-8区	SK01	燈籠	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半	円錐状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第421図-13 / p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-92	35次	SE02	燈籠	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第21図-23 / p 91	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図-8-93	97次B-13区	SX14	燈籠	Ⅲ-3b期前半	19世紀前半～19世紀中頃	穿孔なし	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第139図-12 / p141	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-8-94	51次A-1区	SK14	鐘樓	Ⅲ-3b期前半	19世紀前半～19世紀中頃	竈出土	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第73図-4 / p 68	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1996
第1図-8-95	51次B-2区	SK722	神輿	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第80図-14 / p 84	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-8-96	35次	SE02	銅緑釉瓦	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-2分冊	第21図-24 / p 91	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図-8-97	51次A-3区	SE04	柿軸榫木鉢	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第323図-9 / p162	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-98	51次A-1区	SE21	独楽	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第97図-6 / p 81	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-99	78次B-8区	SK01	独楽	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第421図-12 / p 199	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-8-100	192次	SD2001	独楽	Ⅲ-3b期前半	18世紀後半～19世紀前半		伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	第18図-115 / p 22	伊丹市教育委員会	2004
第1図-8-101	209次	SK7	地蔵	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～20世紀	棒状穿孔	伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	第83図-8 / p110	伊丹市教育委員会	2004
第1図-8-102	24次Aト	SK02	天神	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第5図-9 / p100	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図-8-103	24次Aト	SK02	天神	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第5図-12 / p100	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図-9-104	209次	SK7	虚無僧	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～20世紀		伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	第83図-10 / p 110	伊丹市教育委員会	2004
第1図-9-105	86次B-11-1区	SE02	おぼこ	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅵ	第113図-4 / p 116	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1999
第1図-9-106	51次B-3区	SE01	力士	Ⅲ-3b期後半	18世紀末～19世紀末		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第110図-2 / p113	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-9-107	17次	SD02上層	狐	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-22 / p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図-9-108	51次A-1区	SK614	犬	Ⅲ-3b期後半	19世紀初頭～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第183図-1 / p111	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1995
第1図-9-109	63次B-4区	SK260	犬	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅵ	第27図-10 / p33	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1999
第1図-9-110	17次	SD02上層	鴉	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-13 / p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図-9-111	23次	SK08	兵士	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第58図-3 / p 70	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図-9-112	17次	SD02上層	お多福	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-8 / p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図-9-113	17次	SD02上層	男性	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-9 / p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図-9-114	17次	SD02上層	太鼓	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-7 / p 55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987

有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土のミニチュア土製品一1

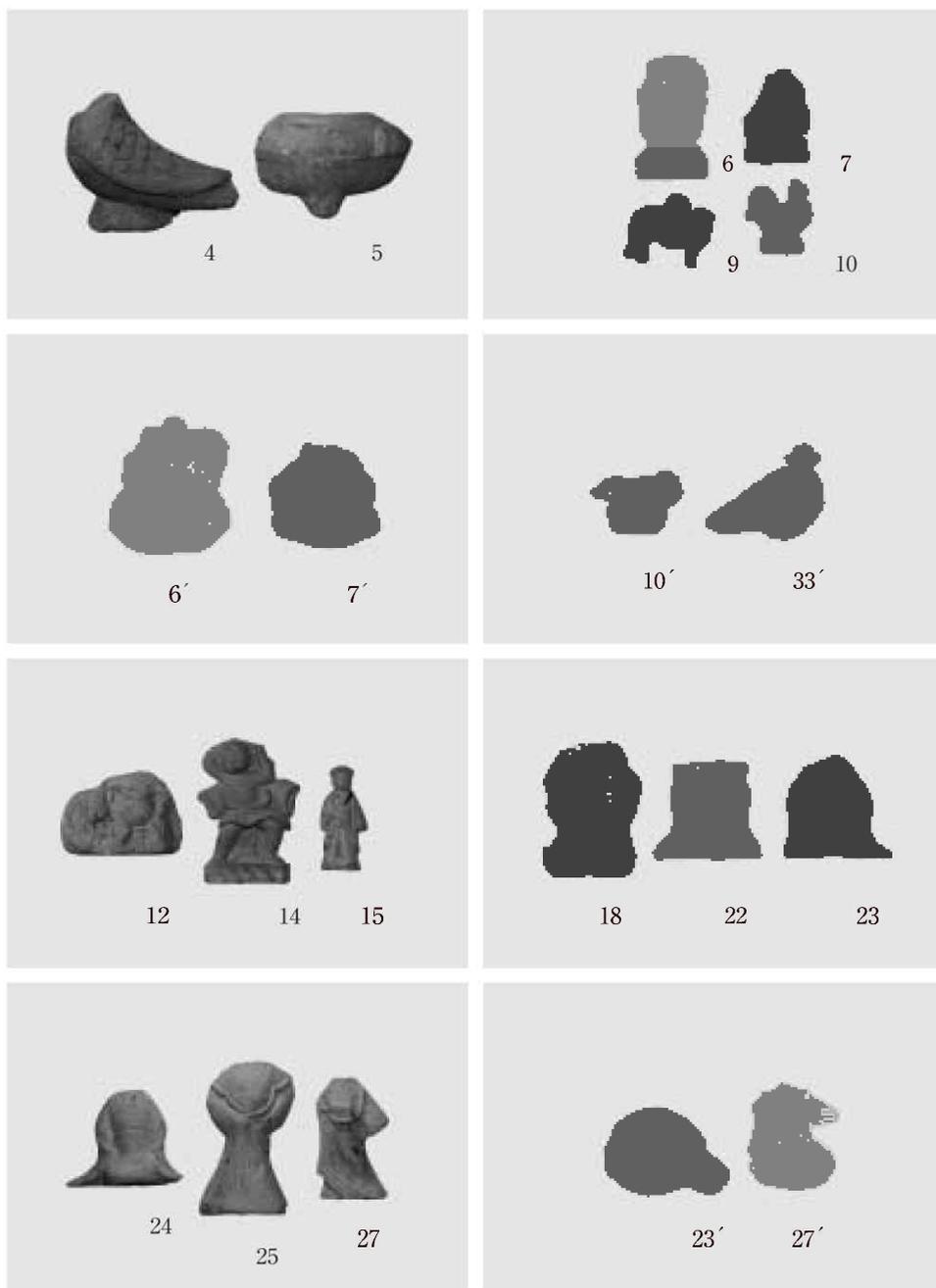
第1図 9-115	17次	SD02上層	面子・銀杏	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-3 /p55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図 9-116	23次	SD01	面子・枳	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第81図-8 /p82	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図 9-117	209次	SK7	神社	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～ 20世紀	棒状穿孔	伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復興・復興事業に伴う発掘調査	第83図-9 /p110	伊丹市教育委員会	2004
第1図 9-118	17次	SD02上層	神社	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～ 19世紀後半	棒状穿孔	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-21 /p55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図 9-119	51次B-3区	SE01	平等院	Ⅲ-3b期後半	18世紀末～19世紀末		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第110図-4 /p113	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 9-120	17次	SD02上層	淀城	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-14 /p55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図 9-121	17次	SD02上層	淀城	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅰ	第50図-15 /p55	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987
第1図 10-122	63次B-4区	SK260	蔵	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅵ	第27図-9 /p33	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1999
第1図 10-123	51次A-1区	SK614	神輿	Ⅲ-3b期後半	19世紀初頭～ 19世紀後半	穿孔なし	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第183図-2 /p111	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1996
第1図 10-124	209次	SK7	神輿	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～ 20世紀	円錐状穿孔	伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復興・復興事業に伴う発掘調査	第83図-7 /p110	伊丹市教育委員会	2004
第1図 10-125	51次B-3区	SE01	車輪	Ⅲ-3b期後半	18世紀末～19世紀末		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第110図-3 /p113	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-126	24次Aトレ	SK02	漏斗	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第5図-11 /p100	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図 10-127	23次	SK02	面型・おたまじゃくし?	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第9図-1 /p89	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図 10-128	209次	SK7	鈴	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～ 20世紀		伊丹市埋蔵文化財調査報告書29集 震災復興・復興事業に伴う発掘調査	第83図-6 /p110	伊丹市教育委員会	2004
第1図 10-129	63次B-4区	SE04	鈴	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅵ	第29図-11 /p35	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1999
第1図 10-130	117次A-7区	SX20	備前焼壺	Ⅲ-3b期後半	19世紀前半～ 19世紀後半	参考資料 備前焼	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅶ	第44図-1 /p45	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	2001
第1図 10-131	24次Aトレ	SK02	鍋	Ⅲ-3b期後半	18世紀後半～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅱ-1分冊	第5図-10 /p100	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1992
第1図 10-132	51次A-1区	SK614	ペーゴマ	Ⅲ-3b期後半	19世紀初頭～ 19世紀後半		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅳ	第183図-3 /p111	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1996
第1図 10-133	63次D-2-2区	SV01-B	蟹	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-6 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-134	63次D-2-2区	SV01-B	貝	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-7 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-135	63次D-2-2区	SV01-B	菊花	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-20 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-136	63次D-2-2区	SV01-B	菊花	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-21 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-137	63次D-2-2区	SV01-B	桃	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-13 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-138	63次D-2-2区	SV01-B	桃	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-14 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-139	63次D-2-2区	SV01-B	奴	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-1 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-140	63次D-2-2区	SV01-B	奴	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-2 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-141	63次D-2-2区	SV01-B	?	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-3 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図 10-142	63次D-2-2区	SV01-B	鯉	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書Ⅴ	第158図-4 /p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997

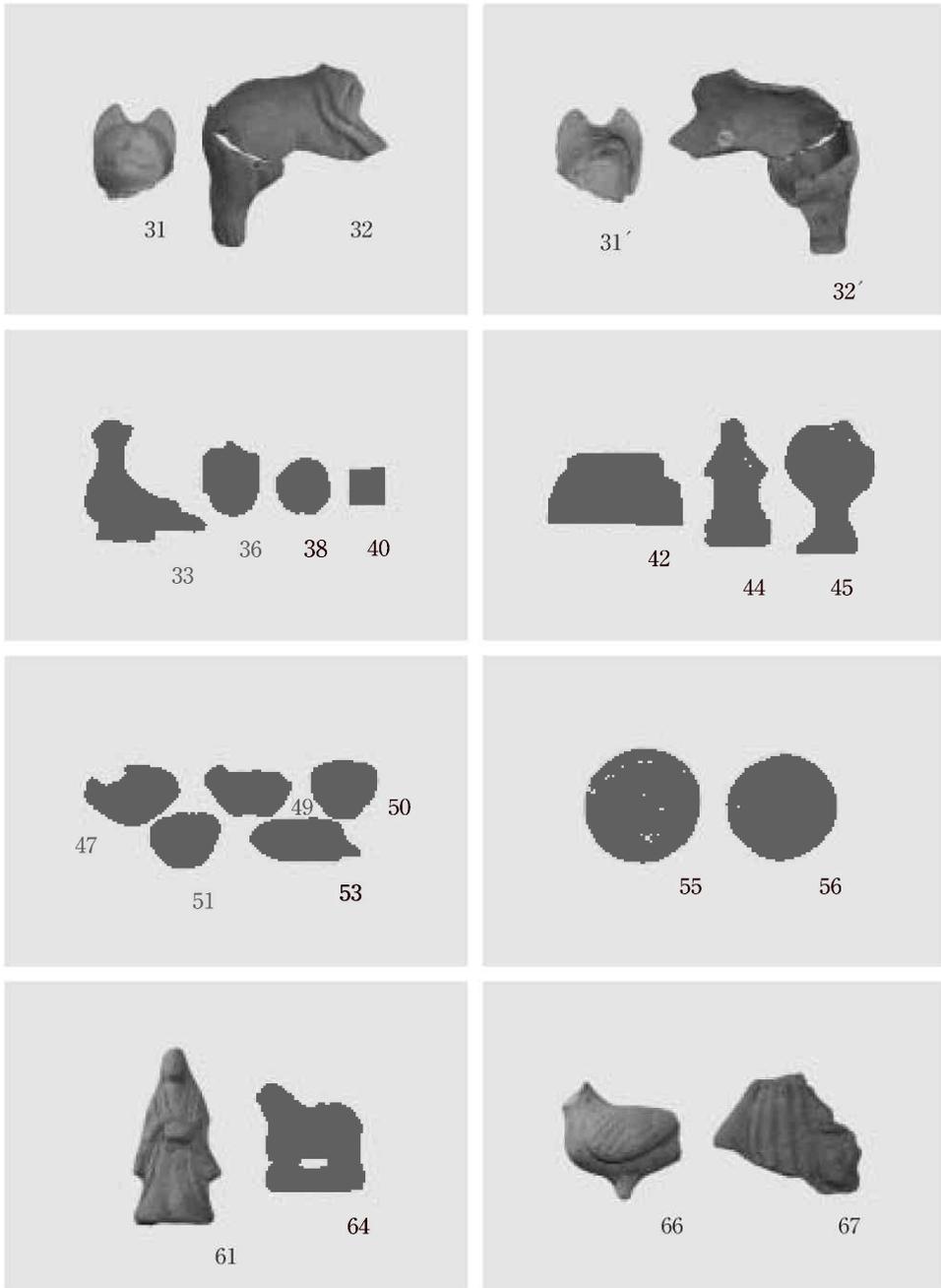
第1図-10-143	63次D-2-2区	SV01-B	烏賊	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-5/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-144	63次D-2-2区	SV01-B	貝	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-8/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-145	63次D-2-2区	SV01-B	稲束	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-9/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-146	63次D-2-2区	SV01-B	蜜柑	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-10/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-147	63次D-2-2区	SV01-B	瓜	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-11/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-148	63次D-2-2区	SV01-B	?	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-12/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-149	63次D-2-2区	SV01-B	?	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-15/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-150	63次D-2-2区	SV01-B	?	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-16/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-151	63次D-2-2区	SV01-B	?	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-17/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-152	63次D-2-2区	SV01-B	瓢箪	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-18/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-153	63次D-2-2区	SV01-B	菊花	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-19/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-154	63次D-2-2区	SV01-B	桔梗	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-22/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-10-155	63次D-2-2区	SV01-B	打出の小槌	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-23/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-11-156	63次D-2-2区	SV01-B	?	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-24/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-11-157	63次D-2-2区	SV01-B	?	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-25/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-11-158	63次D-2-2区	SV01-B	算盤	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-26/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-11-159	63次D-2-2区	SV01-B	算盤	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-27/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-11-160	63次D-2-2区	SV01-B	戎大入袋	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-28/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-11-161	63次D-2-2区	SV01-B	戎大入袋	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-29/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997
第1図-11-162	63次D-2-2区	SV01-B	枡	Ⅲ-3b期後半	19世紀中頃		有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	第158図-30/p164	大手前女子大学・伊丹市教育委員会	1997

文献凡例

I	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書I	大手前女子学園有岡城跡調査委員会	1987年
II-1分冊	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書II-1分冊	大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会	1992年
II-2分冊	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書II-2分冊	大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会	1992年
III	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書III	大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会	1994年
IV	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書IV	大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会	1995年
V	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書V	大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会	1997年
VI	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書VI	大手前大学史学研究所・伊丹市教育委員会	1999年
VII	有岡城跡・伊丹郷町発掘調査報告書VII	伊丹市教育委員会	2001年
伊丹市16集	有岡城跡発掘調査報告書Ⅵ	伊丹市教育委員会	1992年
伊丹市18集	有岡城跡発掘調査報告書Ⅶ	伊丹市教育委員会	1993年
伊丹市29集	伊丹市埋蔵文化財調査報告書 震災復旧・復興事業に伴う発掘調査	伊丹市教育委員会	2004年

有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土のミニチュア土製品一





有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土のミニチュア土製品一

